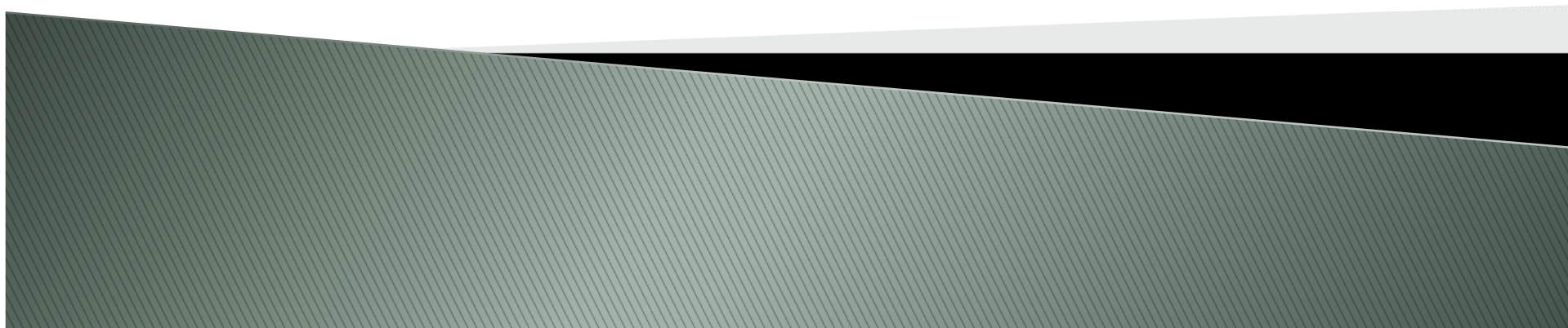


グループホームの 職員育成と虐待リスク管理

日本グループホーム学会 事務局長
室津 滋樹

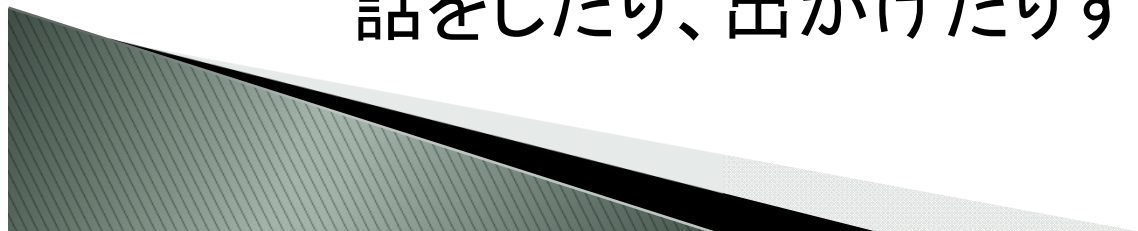


グループホームで
大切にしていること



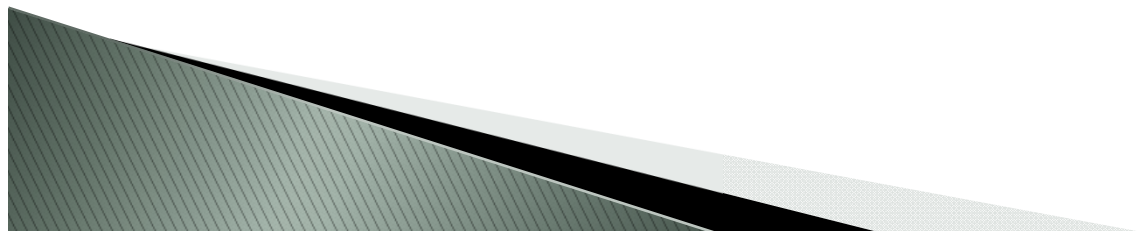
一人一人の暮らしがあるけど、 一人ぼっちじゃない

- ▶ グループホームは共同生活と思われがちですが、決してそうではありません。
- ▶ 共同生活という側面はありますが、基本は一人一人の暮らしです。
- ▶ グループホームには、ゆっくりできる自分の部屋があり、一人一人の暮らしがあります。
- ▶ グループホームには一人でいたくない時はみんなと一緒にいることができる部屋もあり、一緒に話をしたり、出かけたりすることもできます。



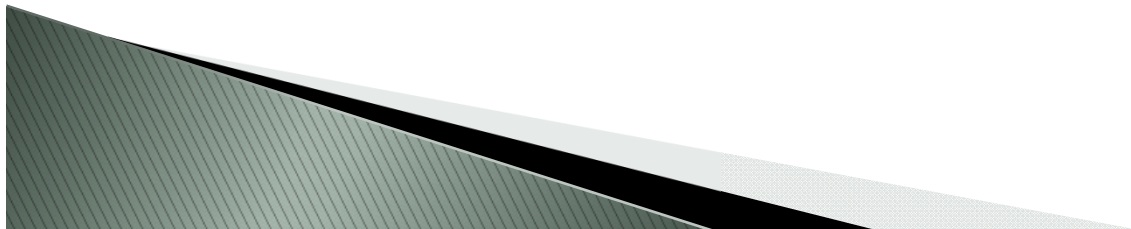
グループホームで普通の暮らし

- ▶ 朝仕事や作業所や通所施設など日中の活動の場に出かけ、夕方グループホームに帰ってきます。
- ▶ 休みの日にはごろごろしていたり、自分の好きなことをしています。
- ▶ でも、暮らして楽しいばかりじゃありません。



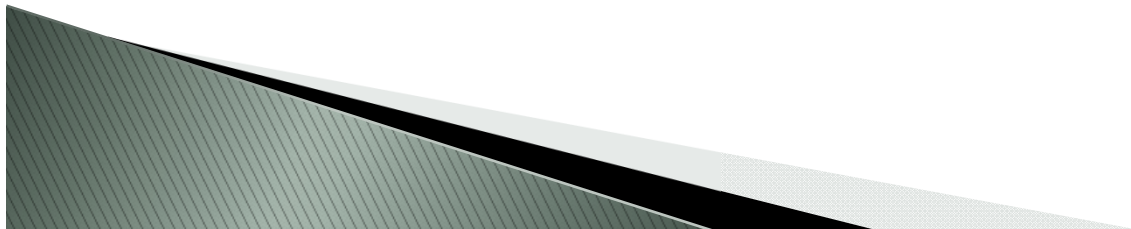
グループホームは自分の家

- グループホームでは自分の部屋でどう過ごすか、何時に寝るかなど、自分の暮らしは自分で決めます。
(もちろん自分で決めることが難しい人は援助者が手伝います)
- グループホームでの暮らしは話しあって決めます。
- 運営にも加わります。
- 規模が小さいからこそ自分の暮らしを自分で決められます。



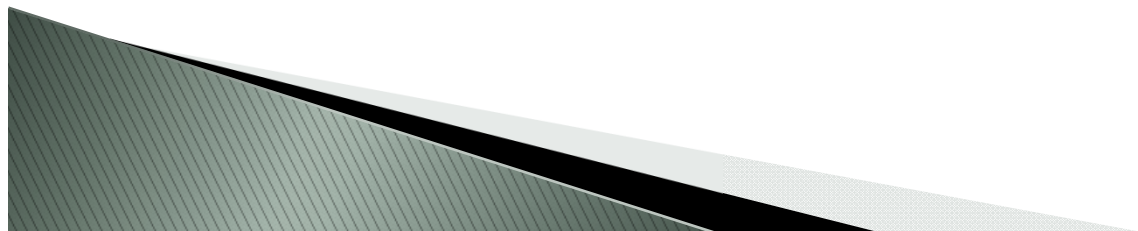
規模が小さいからこそできること

- ▶ 旧制度のグループホームのほとんどが4人から5人の規模となっています。
- ▶ どういう順番でお風呂に入るか、献立をどうするかなど、話しあって自分たちで決められるかどうかには、規模の大きさが影響します。
- ▶ また、現実に建物を確保する上でこれが上限であった結果でもあります。



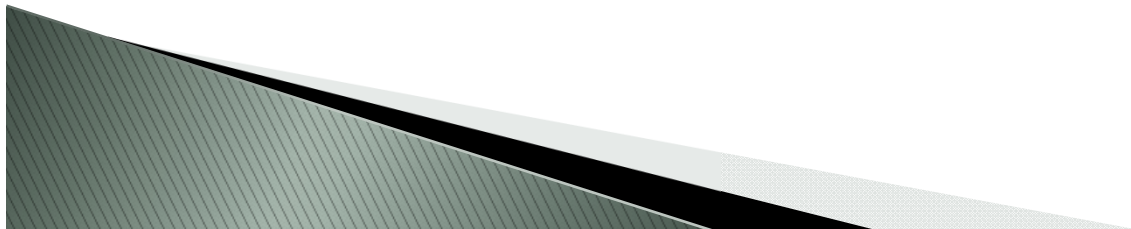
訓練をする場所じゃない。

- ▶ ゆっくりとくつろげる暮らし、自分で好きにできる暮らしの場がグループホーム
- ▶ ずっとグループホームに住んでいてもいいし、一人暮らしに挑戦するのもいい。
- ▶ それを決めるのは入居者1人1人。



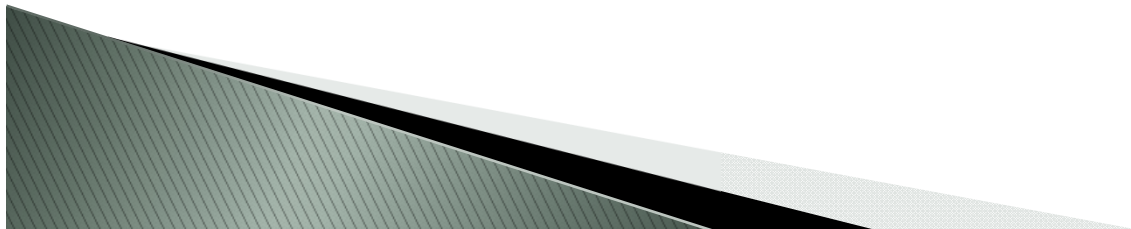
グループホームは家庭の代わり？

- ▶ 世話人さんがお母さんの代わりで、入居者はみんな兄弟？
- ▶ お母さんにはお母さんの役割、入居者を一人のおとなとして支援する世話人には世話人だからこそできる役割があるのです。
- ▶ もちろんグループホームを家庭的な暖かい雰囲気になろうという努力は大切です。



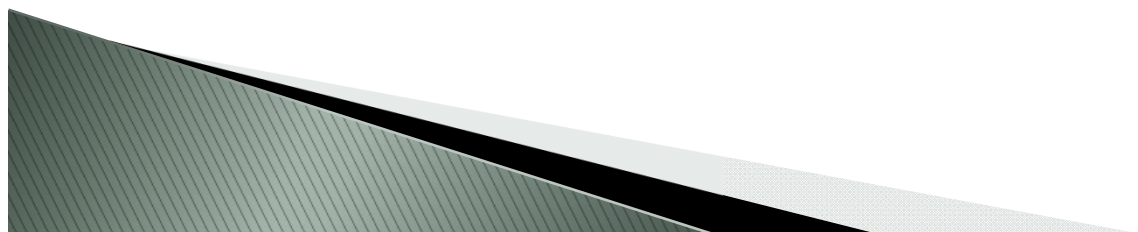
お金を払って自分の好きなものを選ぶ

- ▶ 生活にかかる費用は、自分の生活費でまかないます。
- ▶ 生活費に使うのは、給料、年金などです。生活費が足りない場合は生活保護を利用することもできます。
- ▶ 生活費の中から家賃、食費、水道光熱費など、生活するのに必要な経費を支払います。



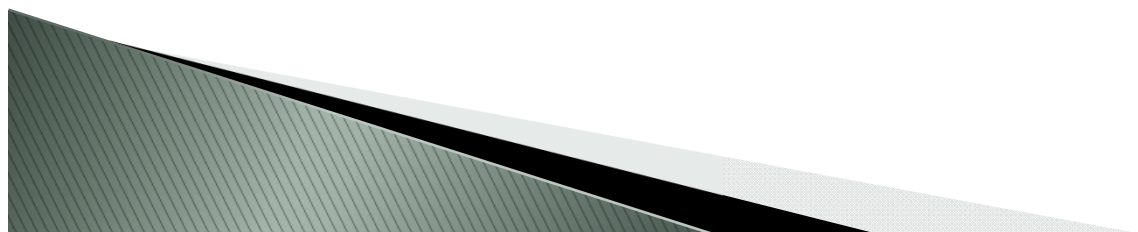
一人でくらす、二人で暮らす、何人かで暮らす

- ▶ 一人で暮らしたい人は一人で、二人で暮らしたい人は二人で、何人かで暮らしたい人は何人かで暮らせるようになるのが目標です。
- ▶ グループホームはいろいろな暮らし方の一つです。



地域にあるのがグループホーム

- ▶ 地域の中で
- ▶ 地域のいろいろな人と関わり合って
- ▶ 地域を変えていく
- ▶ そして地域に支えられる
- ▶ それがグループホームです

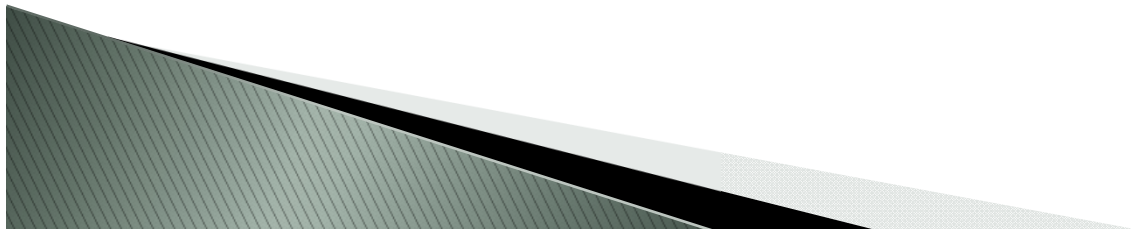


職員育成と虐待リスク管理 現状と課題




相次ぐ人権侵害事件

- ▶ 2009年、神奈川県内のグループホーム等で入居者への性的虐待や預かり金着服という人権侵害事件が発生した。
- ▶ 県知事から「社会福祉施設等における不祥事の防止に関する緊急アピール」
- ▶ 再発防止のための県の取り組み
- ▶ 人権チェックリストによる人権意識の自己点検
- ▶ グループホーム等職員人権擁護研修会の取り組み

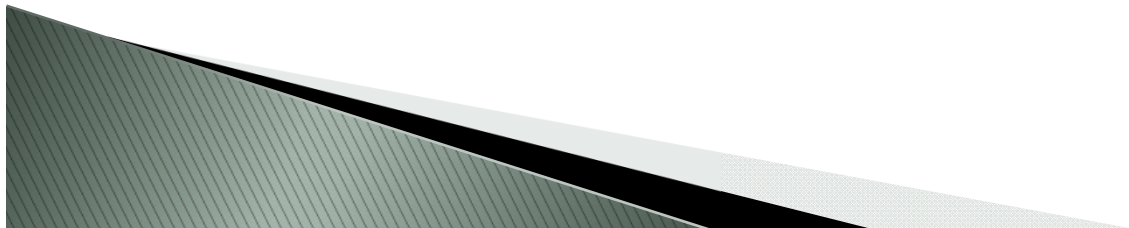


グループホーム援助者の孤立を防ぐ

- ▶ グループホームにおける人権侵害の背景には、グループホーム特有の状況がある。
 - ▶ 法人としては、小規模な法人も多い。
 - ▶ 一人職場で援助についてオープンに話し合うことがむずかしい。
 - ▶ 一人職場であるために、お互いがどのように援助をおこなっているかを検証する機会も少なく、独りよがりに陥りやすい。
 - ▶ 夜の援助が中心になるために、相談したいときに相談する相手がいない。
 - ▶ 夜間、休みの日も関係ない職場であることなど、人材確保が非常にむずかしい状況。
- 

神奈川の取り組み

- ▶ グループホームの特性を踏まえて、その地域のグループホーム援助者が法人を超えて集まり、援助者とおしの横のつながりをつくっていく取り組みをおこなった。
- ▶ 当時の神奈川県域(5圏域)および政令市(川崎市、横浜市)で研修をおこなった。
- ▶ 地域ごとに研修の取りまとめ役を決め、相談支援専門員＋グループホーム関係者をコアスタッフとして、研修の打ち合わせをおこないながら、グループワークの担い手をつくった。



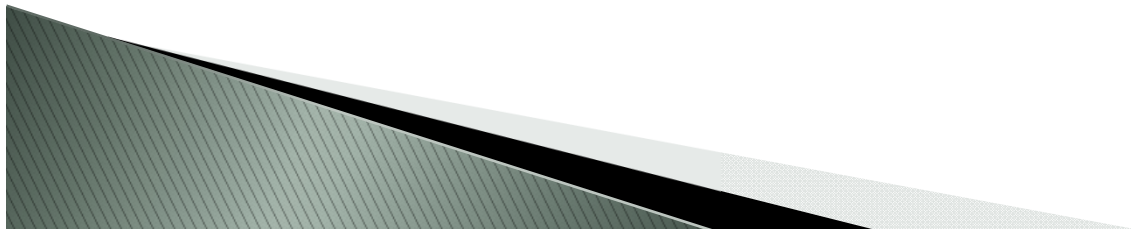
研修参加者からの声

- ▶ 一人で世話をしているので誰かと話したかった。
- ▶ 同じ職場で働いている人たちの現場の声を聞きたい。
- ▶ 自分のおこなう支援が正しいのか確認できるような研修（情報交換など）
- ▶ 人権については、繰り返し研修を受けて様々な意見を聞くことが大切だと思う。
- ▶ 自分のホーム内での対応が虐待となっていないか、第三者に見てもらいたい。
- ▶ 利用者さん一人一人、その日によって違うので毎日が緊張の連続。
- ▶ つい感情的になってしまうことがある。



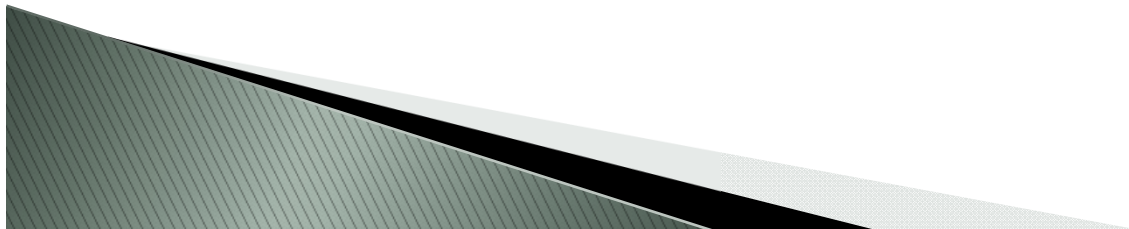
しかし続く事件

- ▶ その後も横浜市のグループホーム等で人権侵害事件が続いた。
- ▶ 横浜市のNPO法人における金銭搾取事件～運営者が入居者から金銭を搾取。指定取り消しとなる。
- ▶ 同じく横浜市の社会福祉法人における非常勤職員の性的虐待事件。雇用したばかりの非常勤職員による入居者への性的虐待。




何が問題か 1

- ▶ 研修に参加していない援助者がたくさんいること
～非常勤やパートの職員を含めた研修の必要性。
- ▶ 法人による採用直後の職員を対象とした初任者研修の実施と新人職員の仕事内容の把握が重要であることが浮き彫りとなった。
- ▶ 連絡会や福祉協会など、所属団体がない法人が運営するグループホームの孤立



何が問題か 2

- ▶ 横浜市の運営者による金銭搾取の問題～入居者のほとんどが入所施設からグループホームへの地域移行による入居であった。
 - ▶ 居住地特例により、グループホームがある地域の区役所が援護の実施機関とはなっていない。
 - ▶ 居住地特例とは、グループホーム入居にあたって、自治体への負担が集中することを避けるために、前の住所地を援護の実施機関とするという特例措置である。
 - ▶ これにより、援護の実施機関が遠く離れている場合がある。その結果として、ワーカーがグループホームに直接出向く回数が少なくなる。
 - ▶ 周辺の声が届かない実施機関～援護の実施機関は近くで入居者を見守る役割があるのではないか。
- 

グループホームの
弱さを補い、良さを活かす



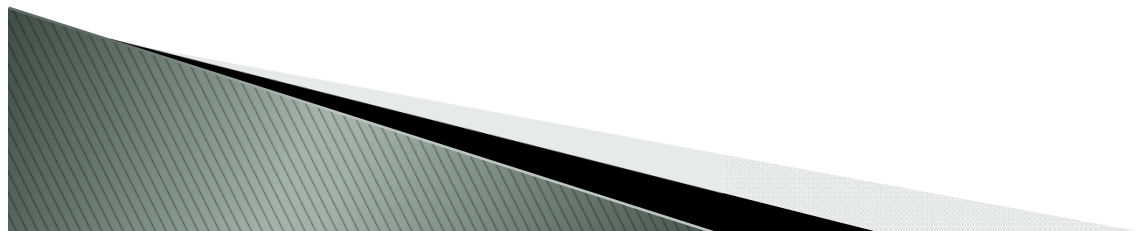
グループホームの良さは、同時に弱さでもある。

- ▶ 小規模な住まいでは援助者も1人という場合が多く、援助者が追い詰められやすかったり、独りよがりになりやすかったりします。
- ▶ グループホームは、入居者と一対一の援助も多いことから、援助の内容が他人には見えにくく、密室化しやすいところを自覚しておくことも大切です。
- ▶ これを密室化を防ぐためには、法人を超えて地域にあるグループホームどおしが話し合う機会を作っていくことも大切です
- ▶ 非常勤、パートの援助者にも研修の機会を広げることや、初任者研修の充実も大切です。



弱さを補い、良さを活かす方法

- ▶ さらに、グループホームの持つ弱さを補い、良さを活かす方法を考えましょう。
- ▶ 運営者、援助者自身が自分の運営や援助を振り返る機会をつくる。～横浜市障害者支援センターと横浜市グループホーム連絡会が取り組んできたモニター活動の中から作られた自己点検表を使った自己チェック。
- ▶ 第三者がグループホームを定期的に訪問し、援助者の話を聞くしくみも必要です。後見人による訪問もその一つです。相談専門員(ケアマネージャー)とのつながりも大切になります。千葉や横浜のように第三者が訪問するしくみを作っている自治体もあります。



入居者の成年後見の類型と有無

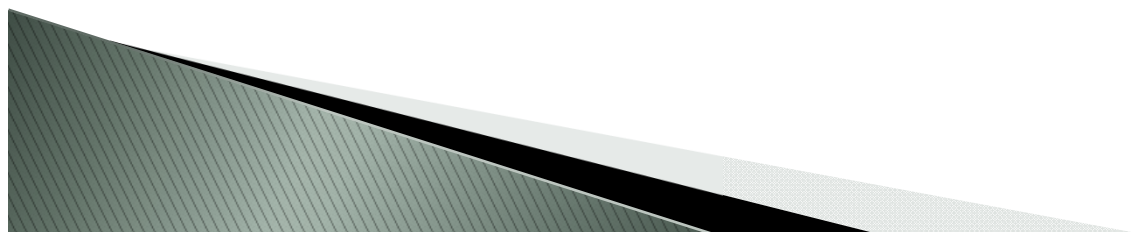
	2009年	2012年
▶ 後見	475(4.1%)	1,024(5.5%)
▶ 保佐	101(0.9%)	277(1.5%)
▶ 補助	63(0.5%)	104(0.6%)
▶ なし	10,912(94.5%)	17,173(92.4%)
▶ 合計	11,551(100%)	18,578(100%)

- ▶ * 無回答を除く
- ▶ グループホーム・ケアホーム全国基礎調査2009
- ▶ 平成24年度グループホーム及びケアホームにおける支援に関する実態調査



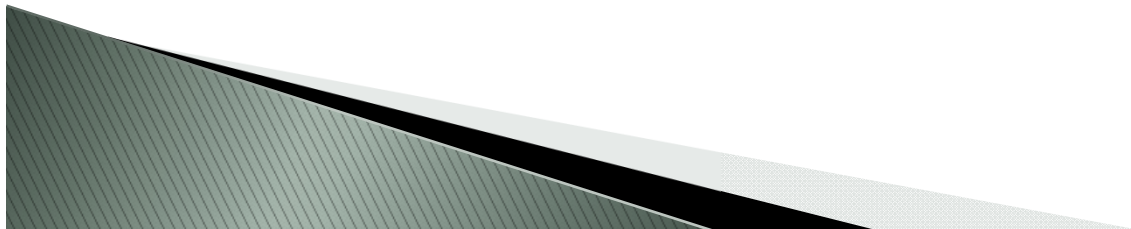
入居者自身の力も重要です

- ▶ 横浜市グループホーム連絡会では、入居者部会があります。入居者自身が集まる機会が定期的におこなわれている中から、グループホームでの不適切な支援が見えてくることもあります。
- ▶ 日本グループホーム学会の入居者委員会では、入居者自身がおこなうワークショップ「グループホームでいきいきと」に取り組んでいます。～このワークショップの目的は、入居者が自分たちのホームや生活について話し合い、考えるチャンスをつくることです。



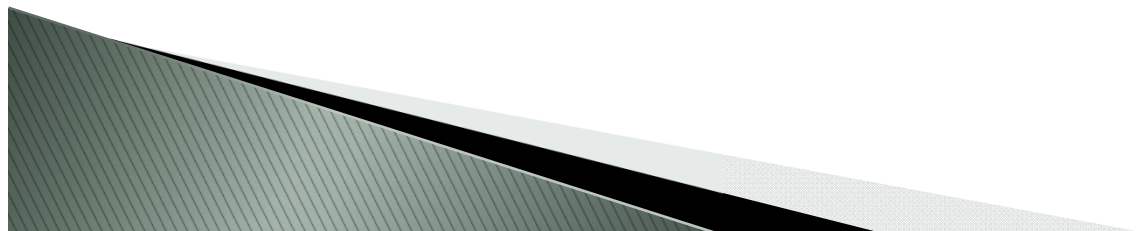
権利侵害を防ぐために

- ▶ 入居者自身がいやなことをいやという力を育てていくことは、人権侵害を防ぐためには、最も重要です。
- ▶ グループホームに関わっている人たちに見守りの役割を担ってもらう。～地域の人たち、関係している通所先、ヘルパー派遣事業所、相談支援員、担当のワーカー、後見の人等
- ▶ 援助者自身が気づくための自己点検や援助者どおしのつながり

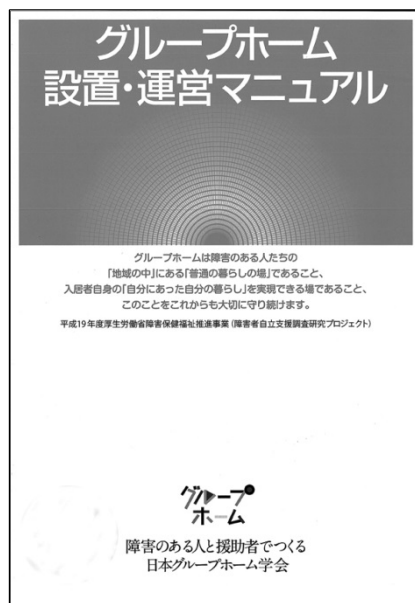


入居者の権利侵害はどこで起きるか

- ▶ グループホーム入居者への権利侵害は、グループホームだけではなく、他のところでも起こる。
- ▶ ＊ 就労先や通所先
- ▶ ＊ 通勤途中など、町の中で
- ▶ ＊ 親や身近な人たちから
- ▶ 入居者の変化にグループホーム援助者が早く気づくことも、大切な役割。



参考資料



グループホーム設置・運営マニュアル
「12章 グループホームの設置・運営、援助をチェッ
ックする～モニタリングについて」に、設置時、
運営時のモニターリストと自己点検表を収納。
日本グループホーム学会サイトよりダウンロード
できます。

<http://www.gh-gakkai.com/>

グループホームにおける権利擁護 に向けた取り組み報告書

グループホーム職員向け研修方法等について
収納。厚生労働所サイトよりダウンロードで
きます。

（平成21年度障害者自立支援調査研究プロ
ジェクト成果物）

